

2012年10月号



Osaka Referee 強化育成通信

発行
 (一社)大阪府サッカー協会審判委員会
 強化育成部長 中川毅
 強化育成通信担当 神谷達平
 お問合せ 大阪府サッカー協会審判担当
 ofa-shimpan_jimu@peach.ocn.ne.jp

「主審の決定は最終です」 (一社)大阪府サッカー協会 審判委員会 副委員長 泉博

先日の国際試合で、日本代表がフランス代表に勝利しました。攻撃に耐え、かろうじて1-0で勝利しました。その喜びもつかの間、4日後のブラジル代表戦は0-4で敗れました。期待していた方もたくさんいらしたのではないのでしょうか。このブラジル戦のポイントは、なんといっても2点目のPKの判定ではなかったのでしょうか。私自身「？」でした。あの判定がなければ流れはどうなっていたかわかりません。少なくとも0-4にはならなかったと思います。

RESPECT PROJECT



大切に思うこと

主審の決定は最終です。覆ることはありません。(再開前ならば変更は可能ですが…)

みなさんはその事実を重く受け止め、日々の審判活動にあたっておられるのでしょうか。もちろん審判員もミスはありますし、その結果割り当て停止等の処分をされることがあります。でも、選手・チーム・サポーターにとっては、審判員の判定ひとつが、もっと大きく影響することがあります。おかげさかもかもしれませんが、その後の人生に影響するかもしれません。このことを肝に銘じて試合に臨んでほしいと思っています。審判員のための試合は、ひとつもありません！

●指導育成合宿に参加して(8/25, 26開催) (3級 森周平氏)



8月25、26日に行われた育成部合宿研修会に参加させて頂きました。初日の体力テストでは皆で声を掛け合い、チーム全員が一つになって走り切りました。2日目の実技研修は、「正しく判定するため、自分が見たい所に素直に見に行く」ということテーマにして取り組みました。全体を通して良いレフェリングができているとの評価を頂きましたが、主審の承認を得ずにフィールドに復帰した競技者に対して適切な処置・再開方法を取れず、適用ミスをしてしまい、競技規則の理解が不十分であると痛感しました。試合後、整列する前に、負けたチームのGKから「ありがとうございました」と言われたことは、審判をやっていて良かったなと思えた瞬間でした。



今回の合宿での経験・失敗を今後の審判活動に活かしていこうと思います。育成部スタッフの皆様、審判仲間の皆様、2日間本当にありがとうございました。

(左上、左)体力テストに挑む審判員たちの様子

●2級審判員研鑽会(9/6開催) (2級 野口健太郎氏)

今回はJFAナショナルトレセンコーチ関西チーフである内山氏を迎えての研鑽会であった。我々は普段審判関係者からの講話・研修等を受ける機会は多くあるが、技術関係の方の話聞く機会が少ないため、今回の話は非常に興味深いものになった。

率直に言うと内山氏は分野こそ違うが、サッカーに対して非常に「熱い」人物であった。中でも特に印象的だったのは、内山氏が指導していたチームの選手が、レフリーの判定によってその人生を変えざるをえなかったということであった。その内容は自分にとっても突き刺さる内容であった。我々は審判の判定が人生に影響を与える場合もあることを心に留めておかなければならない。

内山氏が繰り返し言っていたのは「一緒に」サッカーを良くしたい。技術だけでなく審判だけでなく、技術・審判そのほかサッカーに関わるすべての人々が協力して、日本のサッカーを良くしたい。

また我々審判員がその一翼を担っているのだと気の引き締まる思いになった。



(上)JFA 内山氏の講義

(下)受講する審判員の様子



2012年夏レポート特集

●2012 北信越かがやき総体(7/27~31) (2級 戸浦博則氏)

内容： 7/27(金) 開校式、競技規則テスト、体力測定、研修会場にて研修
7/28(土) 2会場に分かれて実技研修、夕食後研修会場にて研修
7/29(日) 大会1日目 各会場にて審判割当、夕食後研修会場にて研修
7/30(月) 大会2日目 各会場にて審判割当、割当後研修会場にて研修、懇親会
7/31(火) 大会3日目 各会場にて審判割当、解散

研修会テーマ：

- ①主審と副審の協力
- ②自己分析能力を高める

【研修会全体を通じて】

今回、長野県インターハイに参加させていただき色々なことを学びそして感じるものがありました。暑い中での1級基準の体力テスト、全国大会という大舞台で戦おうとする選手、スタッフのモチベーションの高さ、審判員たちの情熱と知識や技術のレベルの高さ。

今までに感じたことのない衝撃を受けました。

このインターハイのテーマの一つ「自己分析能力を高める」ということでは試合後、個人で反省、審判チームで反省、その後アセッサーの方からの反省会でのアドバイスで自分の感じたことのずれなどもありとても勉強になりました。もう一つの「主審と副審の協力(今回は副審)」ではどのタイミングで主審を援助すればいいのか難しく、まだ私自身で答えは出ていません。毎試合意識をして試合後に話し合い経験を積むことで克服されると思います。今回、2試合という割当でしたが内容の濃い5日間でした。この研修会に参加する機会をいただき本当に感謝しています。そしてこの経験を大阪でも出せるようにこれからも頑張りたいと思います。

【参加審判員】

北信越かがやき総体：

戸浦博則氏、浜本祐介氏、

渡辺康太氏、兼松春奈氏

日本クラブユースサッカー

選手権(U-15)：

谷本涼氏、広瀬研一郎氏、

渡辺康太氏

●adidas CUP 2012 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)(8/14~17) (2級 谷本涼氏)

私は8月14日から17日までの間、北海道の帯広市で開催されました adidas CUP 2012 日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会に参加させて頂きました。

今回の研修ではスケジュールの都合上、講義の時間がほとんどありませんでしたが、長岡氏によるプレゼンテーションは、私の胸を打つものでした。長岡氏がプレゼンの最後に「心からサッカーを愛してください」というメッセージを私たちに投げかけた際、鳥肌が立ち、涙が出そうになりました。私はサッカーが好きで、現在も審判員としてサッカーに関わっています。これまでは自分で「自分はサッカーが好きです」と言うことに対して何かを想い、考えたこともありませんでしたが、そのメッセージを聞いたとき、『私は本当に心からサッカーを愛しているのだろうか』と自分に問いかけてみました。正直なところ現在の私は『私はサッカーを心から愛しています』と、胸を張って言い切ることはできません。頭の中なかで長岡氏がおっしゃった言葉を改めて考えてみると、決して軽々しく言えるような言葉ではないのだなと感じています。それは人を愛することと同じくらい難しいか、もしかするとそれ以上に難しいことなのかもしれない、と感じています。

北海道から帰阪してからずっとそのことについて考えていますが、社会人として、サッカー人として様々なことを経験していくなかで、近い将来、胸を張って『私は心からサッカーを愛しています』と宣言できるような人間に成長したいと考えています。



大会での試合前の様子。

左から一人目が谷本氏。その右に渡辺氏。

●神鍋少年サッカー大会(8/17~19)

8/17から3日間で神鍋にてサッカー大会が行われ、ユース審判員や女子審判員を中心とした合宿研修を実施しました。参加した皆様、お疲れさまでした。

(左下、下)合宿研修での集合写真



強化育成部今後の予定

11月1日(木)

2級強化PJ(大阪府協会)

11月21日(水) 19時

指導育成勉強会(大阪府協会)

12月20日(木) 予定 19時

指導育成勉強会(大阪府協会)

12月22・23日(土・日)

女子審判員トレセン(J-Green 堺)